

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE2104
2. 授業担当教員	石崎 達也		
4. 授業形態	講義、グループ討議を用いる。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	学校における教育活動の中核である授業を、児童・生徒が主体的・対話的で深い学びを実現し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学ぶことの意味を捉え直し、問いを持つことの大切さを理解するとともに、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとにワークシートの提出を求める。 ・テーマごとに理解度・習熟度を確認する小テストを実施する。 ・長期休暇時に中間レポートの提出を求める。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣、2019年。</p> <p>【参考資料】 佐藤学著『教育方法学』岩波書店、1996年。 文部科学省『小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示) 解説 総則編』東洋館出版社。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「何をどのように教え・学ばせるのか」「何ができるようになるか」という観点から、教育方法を習得することが出来たか。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けることができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、失敗や間違いを恐れず、積極的に発言・発表すること、リアクションペーパーを活用して授業中に学んだこと・感じたこと・考えたことなどを自分の言葉で表現することを期待する。</p> <p>【学生に期待される学習態度】</p> <p>受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高める。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでほしい。 ② 授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないこと。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告すること。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格とする。) ③ 明らかに授業態度が悪いと判断した際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られないと判断した場合、試験の答案内容如何にかかわらず、不合格とする。 ④ 授業中、私語、居眠りはしないこと。 ⑤ 授業中、使用の指示がない場合は、スマートフォン等の電子機器端末は電源を切っておくこと。 <p>【教員の心がまえ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はできるかぎりシラバスに沿って行う。 ② 受講生全員に伝わるような声で話をする。また専門用語を用いた際は、わかりやすく説明する。 ③ 一方通行の講義だけを行うのではなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れながら受講生全員が意見を出しあえるような双方向対話型の学習環境をつくる。 ④ 遅刻・早退・授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出、その他、授業に臨むうえで不適切と思われる態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	講義の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション [教育方法 (学) の論点整理]	事前学習	シラバス及び教科書の序章 (pp.1~8) を読み、本講義でこれから学ぶことについてイメージをもっておくこと。
		事後学習	本講義の学び方について復習するとともに、他の受講者の意見から学んだことについてレポートすること。
第2回	教育方法の歴史と展望① [近代教育思想と教授学の成立・カリキュラム研究の成立と展開]	事前学習	教科書 pp.11~41 を読み、重要な人物について調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「西洋における教育思想と教育方法の歴史」のポイントを整理すること。
第3回	教育方法の歴史と展望② [日本における教育改革と教育方法の歴史]	事前学習	教科書 pp.44~71 を読み、重要な人物について調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「日本における教育改革と教育方法の歴史」のポイントを整理すること。
第4回	現代教育方法学の論点と課題 [「学力」論争・「問題解決学習」論争・「たのしい授業」論争・「教育技術」をめぐる論争]	事前学習	教科書 pp.73~100 を読み、自分の意見をまとめておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「現代教育方法学の論点と課題」のポイントを整理すること。

第5回	子どもは何を学ぶか [教育目標・内容の諸相]	事前学習	教科書 pp.103~120 を読み、教育目標・内容論に関する重要な用語について事前に調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「教育目標・内容論」のポイントを整理事ること。
第6回	「学習」とは何か [学習論・学習をめぐる3つの理論・学習理論に基づく学習方法]	事前学習	教科書 pp.121~141 を読み、学習論に関する重要な用語について事前に調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「学習論」のポイントを整理事ること。
第7回	「学力」をどう高めるか [学力論・探究と共同]	事前学習	教科書 pp.143~168 を読み、学力論に関する重要な用語について事前に調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「学力論」のポイントを整理事ること。
第8回	「授業」をどうデザインするか [教科内容と教材・学習指導案]	事前学習	教科書 pp.169~188 を読み、授業をデザインするにあたり重要な事項について事前に調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに授業をデザインする際のポイントを整理事ること。
第9回	「授業」の中の指導技術 [板書・発問・ノート指導・コミュニケーション技術]	事前学習	教科書 pp.189~200 を読み、学びのための指導支援に関する重要な事項について事前に調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「学びの指導・支援のあり方」のポイントを整理事ること。
第10回	教育の道具・素材・環境を考える [教材づくり・メディア教育・情報機器の活用]	事前学習	教科書 pp.201~222 を読み、教材に関する重要な事項について事前に調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「教材や学習環境」に関するポイントを整理事ること。
第11回	〈方法〉としてのアクティブラーニング [課題・話し合い・発表]	事前学習	「アクティブラーニング」「協同学習」の技法について事前に調べておくこと。
		事後学習	「アクティブラーニング」の効果について、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第12回	何をどう「評価」するのか [目的に準拠した評価・テスト・パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価]	事前学習	教科書 pp.223~244 を読み、教育評価の考え方や進め方に関する重要な事項について事前に調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「教育評価」のポイントを整理事ること。
第13回	「教科外教育活動」を構想する [教科外活動の分野と教育方法]	事前学習	教科書 pp.245~262 を読み、教科外教育活動の実践例について事前に調べておくこと。
		事後学習	ワークシートをもとに「教科外教育活動」の意義を整理事ること。
第14回	どのような教師を目指すべきか [教師の学び続ける・学び合う教師となるために]	事前学習	教科書 pp.263~285 を読み、「すぐれた教師になるために必要なこと」について自分の意見をまとめておくこと。
		事後学習	「すぐれた教師になるために必要なこと」について、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第15回	教育方法(学)の課題と展望 [授業のふり返りとまとめ]	事前学習	教科書、配布資料を読みなおし、これまでの14回の授業内容を振り返る。
		事後学習	授業内容をふまえた上で、理解が不足していた点を学び直すこと。